2021 年 11 月 21 日発行　　市立大町山岳博物館創立 70 周年

大町山岳博物館友の会　第　189　号

ゆきつばき通信

行事のご案内

冬の自然観察会　ゆ　き　ん　こ　３

ー雪に触ってみよう、その不思議な顔つきー（友の会主催事業）

「ゆきんこ」もいよいよフィールド活動です。午前中は鈴木館長の雪の結晶、積雪断面づくりと観察、雪の種類と性質などの講義とみんなで作業や観察を行います。

昼食後は雪原を歩き、午前中の復習と、動物の足跡、冬芽の観察などいかがでしょう。

《期　　日》　2022 年 2 月 5 日（土）
雨天中止（2-3 日前に実施の判断をします）

《場　　所》　中山高原（大町スキー場）あるいは唐花見湿原
（積雪等の条件により変更する場合があります　＊）

《集合解散》　集合は大町市役所８時 30 分、分乗して現地に、解散は大町市役所 15 時 30 分　＊

《対　　象》　友の会会員　子ども～大人（会員知人同伴可）

《募集人員》　15 名（定員になり次第締切　子供は別枠）

《講　　師》　鈴木啓助館長

《参 加 費》　500 円（子供無料）

《持 ち 物》　防寒支度（冬用手袋、帽子、防寒長靴）、サングラス、雨具、昼食、飲み物、筆記具、ルーペ、ある人はスノーシューまたはかんじき、折りたたみ椅子や敷物　適宜マスク着用のこと

《申し込み》　1 月 7 日～1 月 25 日まで　電話・FAX または直接、友の会事務局へ
（Tel/Fax0261-23-6334）

《当日連絡》　090-3143-9866（宮澤洋介）

＊：詳細は申込者に連絡します

博物館事業ご案内　友の会も協力します

※臨時休館のご案内　12 月 1 日（水）～1 月 14 日（金）
エレベーター改修工事に伴い休館となります。付属園は通常通り利用できます。

「大町自然探検隊」　　大町山岳博物館主催（再始動）
小・中学生とその保護者を対象とした、動物の観察イベントです。2022 年 3 月にかけて、大町市を中心とした様々なフィールドで野鳥や昆虫、生き物の痕跡を観察します。開催日、時間、定員は山博ホームページ　イベント　からご確認ください。
対　象　小・中学生とその保護者　　申込み　山岳博物館へご連絡ください
費　用　保険料として各イベント 100 円/人ご持参ください
※全イベント現地集合、現地解散です。各イベント開催日の前月 1 日から受付を開始します。

◆大町山岳博物館創立 70 周年記念講演会　9 月の「山と博物館」をご覧ください
「エヴェレストが教えてくれたこと　～仕事と山と人と～」
講師：平林克敏氏（日本初エヴェレスト登頂者・信濃大町観光大使）
日時：11 月 28 日（日）　13:30～16:00 含式典等　講演は 14:30～16:00
会場：大町市文化会館　大ホール
オープニングイベント（13:30-14:00）にはエヴェレスト登山隊の映像を上映
※要参加申し込み　山博へ

◆企画展　9 月の「山と博物館」をご覧ください。期間が変更になっています。
「山の繪　－山岳風景画さんぱく収蔵コレクション－」
令和 4 年 1 月 15 日（土）～令和 4 年 3 月 27 日（日）
ミュージアムガイド　令和 4 年 1 月 16 日（日）、2 月 20 日（日）、3 月 20 日（日）
午前 10 時 30 分～　午後 2 時 30 分～　各 20 分程度

◆さんぱくこども冬期だいがく
日時：2 月 5 日（土）、2 月 12 日（土）　　時間：各日 9:00～12:00
場所：鷹狩山周辺
対象：小中学生とその保護者（定員 20 名）　　費用：無料
※要参加申し込み　山博へ

◆山のサイエンスカフェ in さんぱく 2022
日時：3 月 6 日（日）、3 月 13 日（日）　　時間：各日 13:30～16:00
場所：山岳博物館講堂
対象：大人（定員 30 名）　　費用：無料
※要参加申し込み　山博へ

報　告

善光寺道を歩いてみよう

《期　日》　10 月 23 日（土）　午前 9 時　～　15 時
《場　所》　小川村「林りん館」～大町市湯の海（ゆのかい）～水上神社の大杉
　　約 12km
《参加者》　18 名（講師役員含む）
《講　師》　清水隆寿副館長・峰街道の会坂口幸男氏
《役　員》　若林・川崎（晃）・川崎（祐）

山岳博物館友の会の行事として長年続いてきた「塩の道を歩く」が一応完結し、また古道を歩いてみたくなった。ネットで善光寺街道を検索していたら「天空の道　峰街道」というとても魅力的なHPを見つけた。さっそく峰街道の会の事務局になっている「林りん館」のご主人　秋元さんに会いに行った。「林りん館」を集合場所にして大町市美麻の湯の海というところまで歩くことを決めたが、そこから「林りん館」まで歩いて戻る？車をどこかに置いて？ピストンする？悩んでいたら秋元さんが知り合いの旅館の方に話をしてくれてマイクロで迎えにきてくれることになった。

古道といったら清水副館長なので、忙しい清水副館長に頼み込んで講師を引き受けていただいた。清水副館長といっしょに下見をする時間はなく、ぶっつけ本番だったが、写真入りの資料を作ってくださっていた。ポイントポイントで資料を見ながら説明を受けた。

善光寺街道も善光寺に向かっているときは「善光寺街道」だが、大町に向かっているときは「大町街道」になるなど同じ道でもどこに向かっているかで呼び方が変わるなどおもしろいお話をうかがった。あと、近くには戸隠神社信仰遺跡があり、武田信玄と上杉謙信が川中島の戦いの際、戸隠山侵攻を避けて小川村に避難して約 30 年間祀られていた場所で、戸隠では（奥社・

中社・宝光社）小川村では（奥の院・中院・宝光院）などこの話がすごく面白かった。また、特別に参加しくださった「峰街道の会」の坂口さんからも峰街道の話や、峰街道の会の方々が苦労して道を整備して下さっているお話を伺った。

本来であれば絶景の「たばこ岩」のちかくの広場でお昼時間。雲があって絶景とまでは言えなかったが雲の合間から北アルプスの山々を望むことができた。

順調に湯の海まで着いて、バスのお迎えまで少し時間があったので、水上神社の大杉を見に行こうと清水副館長のご提案があり歩き始めた。ここから 500m ぐらいという話だったが、なかなか着かない。まだ～？という声が聞こえ始めたころようやく水上神社に着いた。実際には 1.7km だった。ただ歩いたかいがあったと思えるほどのりっぱな杉の大木だった。バスに水上神社まで迎えに来ていただいて、無事に「林りん館」に戻り 3 時に解散した。

担当役員　記

［感想文］

『善光寺街道を歩いてみよう』に参加して

～戸隠と善光寺街道のつながり知りながら～

矢 口 淳 子

前日の夜、「明日はどこ歩くのかな？」ヤマレコから地図をゲットし印刷をして古いカレンダーに貼りつけてみました。地図の見方はよくわからないものの、「山の中をずいぶん歩くのね・・・。2 万 5000 分の 1 の地図にも辛うじて道があるから大丈夫よね。」と思いながら、いただいた『ゆきつばき通信　お知らせ版』の地図をじぃっと見入りました。「《乙妻山》って戸隠の方じゃなかったっけ？小川村にあるのはどうして？間違いじゃないの？」そんなことを思って床に就きました。

集合場所の林りん館へ向かい、狭くて急な道を何とか進みようやく到着。池田から１時間です。

9 時に朝の顔合わせ会をしました。

善光寺街道と聞いていたこの道は、峰街道と呼ばれ、廃れないようにと整備されている方々がいることを知りました。1 か月に 2 度整備されているということもお聞きし、今日歩けるのもこの方々のおかげとありがたく思いました。

講師の清水副館長さんをはじめ、友の会会長さん、峰街道保存会の坂口さん、キノコ取り名人、動物の専門家、植物に詳しい方などなど専門性の高い方々と一緒でした。歴史、地理、生物などとても興味のある話をしていただき勉強になりました。

峰街道を歩きながら、まず歴史的な話を聞き、なんと昨日の夜モヤッとしていた乙妻山という名前が付けられた訳を想像することができました。この日は午前中とても寒く空気も湿っていて、山は雲に覆われスカッとしない天気でしたので、『戸隠山』を望むことができず残念ではありましたが、この戸隠と深い関係があると知りました。古くは平安時代から小川村と戸隠三院（宝光院、中の院、奥の院）と関わりがあり、小河庄という荘園だった。そして、戦国時代、上杉と武田の対戦で戸隠三院が 30 年間にわたり、筏（いかだ）ヶ峰に避難していたと清水先生よりお聞きしました。だから、本家本元戸隠と共通する名前が、ここ小川村に存在したのでしょう。「高妻山あり、乙妻山あり」です。スッキリしました。

この峰街道には昔は家もたくさんあったようです。善光寺を一度は参詣したいという時代に何人もの方々が往来した道。現在は、シカやイノシシやカモシカの往来が多いようです。前日の雨でぬかるんでいるところに動物の真新しい足跡がくっきりと残っており、18 人の団体で獣道を歩かせていただいている感じでした。また、この峰街道の良さはビューポイントが多いことです。北側は戸隠連邦、虫倉山、アルプス、南は聖山、そして谷あいにみられる『こんなところに一軒家』が点在していました。

北アルプスは時間が経つごとに山容がはっきりしてきました。タバコ岩を湯の海に向かった～大豆岩（まめいわ）東アル

プス絶景のビューポイント～で食事をとったのは 12 時を少し回ったころ。目の前のアルプスが半分くらい雲に隠れていましたが、遠く白馬乗鞍の稜線がくっきり。八方も見えました。「こう見ると権現山っていい山だね。」そんな声も聞かれました。それも、雲がアルプスにかかっていたおかげかもしれません。ただ、雲一つない日に、白馬三山をはじめ、五竜、鹿島、爺ケ岳を間近に見られたら、圧巻だったろうと思います。

このころには太陽も顔を出し、ぽかぽかしてきました。歩数もすでに 1 万歩を優に超え、あと、湯の海まで 30 分くらいだとゴールの話も聞こえて来ました。そして、大豆岩古道(車が通れない細い山道)に差し掛かりました。正直いいますと、善光寺街道は古道なので、ほとんどが車の通れない人ひとり通るのがやっとの道だと思っていたら、そういう古道は数か所でした。そのうちの大豆岩古道は、整備したばかりで通行可能だったようです。ようやく登山靴の活躍する道にやってきました。手ごろなストック〈木の杖〉に出会い、突きながらしばらく歩くと、ふたたび広い道に出、ほどなく湯の海に到着しました。その辻に『右善光寺道　左戸隠道』と刻まれた古い石碑が立っていました。大町の方から歩いてきた人の道しるべで、寛政 11 年〈1,799 年〉(清水先生資料より) 造立されたのだそうです。感慨深いものがありました。

13 時 20 分。まだお迎えのマイクロバスが来ていなかったので、清水先生の案内で水上神社に行くことになりました。あと 500mだと聞いていましたが、実際は 1km 以上ありました(笑)。みなさん健脚で、はつらつとされていましたが、私は筋肉痛の気配でした。水上神社の大杉、樹齢 650 年を拝ませていただき、林りん館にバスで戻ることができました。全行程 5 時間弱、19,000 歩の古道歩きを楽しみました。

コロナ禍がやや鎮まってきたこの時に、古の道を歩き、新しい人との出会い、美しい景色、歴史を知る経験ができ、充実感満足感を得た一日でした。企画運営してくださった方々にあらためて感謝したいと思います。ありがとうございました。機会があればまた参加したいと思います。よろしくお願いします。

［感想文］

善 光 寺 道 ト レ ッ キ ン グ

～道に残された生き物たちの営み～

小 里 玲 奈

はじめまして、大町山岳博物館付属園、飼育担当の小里です。今回は博物館内で回っていた回覧でこのイベントを知り、面白そうだなぁと思い参加しました。普段からトレッキングにはよく行きますが、善光寺道の歴史を学びながらというのがとても新鮮で、楽しかったです。雲行きが怪しくなったりもしましたが、徐々に太陽が出てきて、綺麗な北アルプスも見ることができ大満足です。

そして、色々な生き物の痕跡を見つけることが出来ました。持ち帰ってきたものの中から２つ、ご紹介します。

こちらはネズミが食べたクルミの殻。古道に入った辺りで、拾った方から頂きました。クルミの両側面に丸い穴が開いています。この穴の開け方は個体ごとに癖があります。穴のサイズが大きかったり小さかったり、沢山齧って穴だらけになっていたり、色々な開け方があり面白いです。ちなみにリスはクルミをパカッと綺麗に割って食べる為、殻が半分になります。

こちらはアオバトの羽根。黄緑色の部分が綺麗です。アオバトは住宅地でよく見かける地味なカワラバトやキジバトと違い、全身がほぼ緑色の羽で覆われています。留鳥ですが、森や海にいることが多いため、観察するのは少し難しい野鳥です。この羽根は山道の少し開けた場所に散乱していました。恐らく猛禽類などに捕食されたのでしょう・・・こういった痕跡からは自然の厳しさをひしひしと感じます。

他にもイノシシの足跡や糞、クマが爪を研いだ痕なども見つけられました。人がいない時間帯に、色々な生き物も善光寺道を歩いているようです。今度歩きに来るときは出会えるといいなぁ・・・(^^)

今回は友の会の方々との初めてのイベントということで、少し緊張していましたが、皆さんお優しくて、楽しくおしゃべりしながらトレッキングを満喫できました。ありがとうございました。

烏帽子の会

活 動 報 告 《 神秘の森アドベンチャー　越後八十八か所巡り 》

《月日》11 月 3 日（水・祝）　　《天気》雨/曇り　　《参加者》16 名

《コース状況：その他周辺情報》

昨年悪天候で中止したため再度計画しました。晴れの特異日のはずが、朝の内は雨に降られました。鬱蒼とした森林に奇妙な形をした巨岩が累々と横たわり、迷路のような岩と岩の隙間や割れ目を通りながら、四国八十八か所を模した 88 体の石仏を楽しみました。巨岩は地すべりによって何 km も運ばれてきたもので、世界ジオパークに加盟する糸魚川ジオパークの一部となっています。

《感想》　まさに「神秘の森アドベンチャー　越後八十八か所巡り」

私は行くまで勝手に想像していた。古い町並みの人家の庭先を横切ったり、木の根元にある祠、いわれのある神社に石仏が鎮座しているのを巡るのかと。ところが現地はまるでジャングル。岩壁と樹海の中に人が楽しめるように設計されたテーマパークのようなワクワク感が満載。さらに滑ってこけるんじゃないかというドキドキ感の連続であった。

歩き始めてすぐ目を引いたのは美しい苔たち。見上げる岩一面がみずみずしい濃い緑の苔やしだに覆われていた。前日の雨のせいか、しっとりツヤツヤ。不思議なことにこの森は動物の気配は全く感じられなかった。

“あった、あった！！”と宝探しのような石仏探し。最初は気にしていなかったが、いつの間にか番号を数えていて、“次はなんだっけ？”と頭を使いながら歩いている。薬師如来像が多くあったのは、当時の人々の生活の中では病を怖れ健康が一番の願いだったか。

“ひえーっ！”と思ったのは、坂を登りふと振り返ると、“地割れしたような二つの岸壁”の間に、“今にも落ちそう

な複数の巨岩”が押しあって落ちずに固定されている。そのずっと下を苦労して上り下りしている蟻のように小さな人間。転がっているドでかい岩塊の上を歩いたんだ！びっくりした。地獄谷では過去の地殻変動の凄まじさを目の当たりにした。

きっと信心深い人たちの願いを一心に背負ったのが、この“石仏巡り八十八か所”だと思うが、ここを整備した古の人たちは一体何を思って作ったのか？大変だったろうな。でも本当にこんな所通るのというような隙間のコースや石仏の設置場所には“通れるかい？見つけられるかい！”というような作り手のユーモラスな人柄さえ感じられた。我々にとっては様々な工夫を凝らして飽きずに歩けるようにしてくれた江戸時代の人々の贈り物に頭が下がった。まさか、21 世紀に私たちが楽しんでいるなんて考えもしなかったろう。

さて、今回学んだ教訓。垂れたロープを信じるな！頼るな！その時、ロープは下が固定されておらず、両手で掴んで力を入れて引っ張った途端、私の体はふんぞり返り岩の割れ目に落ちて中吊りになった。左手だけでロープを持ち、足はぶらぶら。下をのぞき込むと 2,3m 下に地面が見える。どうやってはい上がったか記憶にないが、ありがたいことに無傷だった。たぶん、伊予の国で起こった出来事だった。

（丸山優子）

《コースタイム》

大町市役所 7:00 ― 糸魚川 8:15 ― 月不見池 9:00 ― 八十八か所巡り（9:30～12:10）― 昼食（月不見池 12:30～13:10）― 羅漢和尚の墓 14:00 ― 大町市役所 16:00

次回は、12 月 5 日（日）に筑北村の岩殿山を予定しています。

サークル人数が多くなったため、烏帽子の会の新規募集はしておりません。

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

ボランティアサークル

秋に予定していた研修見学は中止になってしまいましたが、来春に実施できればと思っています。

10 月 17 日、太田専門員による地質展示の研修がありました。展示替えの構想を含めてのお話でした。展示している岩石や化石はフォッサマグナの海があり、北アルプスができてきた地史と関連があるもので、地質年表と標本の対比を明瞭にして理解しやすく、解説しやすくしていきたいということです。地球 46 億年についても時間スケールや空間スケールが把握しやすくしたいなど、意見が出されました。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

ゆきつばき通信編集室より

落ち着いた状況ですが、ワクチンをして、マスク、消毒をして、節度ある行動によるものと思います。山博 70 周年の記念事業が目前です。節度を持ってみんなで盛り上げていきたいと思います。

少し先ですが、冬の観察会、ゆきんこもフィールドに出ます。博物館付近にはなくても、標高を上げて山間部に入れば、遊ぶ雪と学ぶ雪があると期待します。最近、動物の足跡も多くみられるようになってきています。楽しみにしてください。

（丸山卓哉）

ゆきつばき通信　第 189 号
発行／大町山岳博物館友の会　　2021 年 11 月 21 日
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334

山博ページ　http://www.omachi-sanpaku.com/
友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています